

文化祭のステージで、某芸人風に全裸お盆芸をするが失敗し、おちんちんを全校生徒に晒してしまった男の子の話

秋の風が校庭を吹き抜ける10月某日、とある高校の文化祭準備が賑わいを見せていた。毎年恒例の文化祭で行われるステージイベントは、生徒たちが出し物を企画し、校内外から集まった観客を楽しませる一大行事だ。3年B組の教室では、クラスのムードメーカーである田中翔太が、みんなの注目を集めていた。

翔太は明るく目立ちたがり屋で、いつも何か面白いことを企むタイプだった。文化祭の出し物を決めるクラス会議で、彼が提案したのは「タツヤ100%風のお盆芸」だった。

「お前ら、タツヤ100%みたいに俺が全裸になって、お盆を手に持ってちんこ隠しながら踊ったら絶対ウケるって！高速回転で見せないテクも見せるぜ！」

教室内が一瞬静まり返った後、笑い声と野次が飛び交った。

「お前、マジかよ！」

「ヤバすぎるだろ、翔太！」

「でも...絶対盛り上がるな、それ！」

クラスメイトの反応は半信半疑だったが、翔太の熱意と「文化祭の伝説になるぜ！」という言葉に押され、結局その案が採用された。特に女子たちは「面白そう！」と目を輝かせ、期待に胸を膨らませていた。顧問の山田先生からは「何かあったときのために下着くらいは履けよ」と釘を刺されていたが、翔太は内心「そんなんじゃタツヤ100%の魂が伝わらない」と、全裸で挑むつもりだった。

文化祭当日、校庭の特設ステージには全校生徒と保護者、近隣住民が集まり、ざわめきが絶えなかった。3年B組の出番が近づくと、翔太は楽屋裏で準備を始めた。男子たちは「お前失敗したら一生ネタにするからな！」とゲラゲラ笑っていた。

翔太はズボンとシャツを脱ぎ捨て、パンツ一枚になったところで少し迷った。しかし、「ここでビビったら男が廃る！タツヤ100%だって全裸だろ！」と自分を奮い立たせ、パンツも脱ぎ捨てた。全裸になった彼は、手に持った丸いお盆（直径30センチほど）を手に握り、軽く股間に当てて感触を確かめた。お盆は銀色に塗装され、キラキラ光ってステージ映えするよう工夫されていた。

「お前ら、俺の勇姿を見届けろよ！」

翔太は意気揚々とステージに上がった。観客席からは「来た来た！」「マジでやるんだ！」と興奮の声が上がり、拍手と笑い声

が混じる中、司会の生徒がマイクで紹介した。

「次は3年B組、田中翔太による『タツヤ100%』です！拍手でお迎えください！」

ドツと沸く観客。翔太はステージ中央に立ち、BGMとしてタツヤ100%を彷彿とさせるコミカルな曲が流れ始めた。お盆を右手に持ち、股間にピタッと当てたまま、彼はリズムに合わせて腰を振ったり、片足を高く上げたりと、ユーモラスな動きを披露した。観客は爆笑し、手拍子が鳴り響いた。

「すげえ！翔太、最高！」

「笑い死ぬわ、これ！」

特に女子生徒たちは、前列に陣取って目を輝かせ、歓声を上げていた。翔太は調子に乗って、タツヤ100%の得意技である高速回転を披露することにした。お盆を両手で股間に押し当て、くるっと一回転。観客が「オーッ！」と沸いた。さらに勢いをつけて連

続回転を試みた。お盆を器用に動かし、股間を隠し続ける姿に、女子たちは大喜びで拍手喝采を送った。

「隠してる！ 翔太、めっちゃ上手い！」

「やばい、面白すぎる！ もっとやって！」

「本当に全裸なのおもしろすぎ！」

しかし、その瞬間だった。回転の勢いが強すぎて、手が汗で滑り、お盆が翔太の手から離れてしまったのだ。お盆は「カラン！」とステージに落ち、彼の股間が一瞬にして無防備にさらされた。